

自信をもって、胸を張って

作成日：2024/2/27
対象児：5歳児ふじ組
作成者：小城亜矢子

ねらい：目標に向かって自分の力を出し、達成感や充実感を味わう。



振り返り

年間通して子ども達が楽しみに取り組んできたテニス。テニスをしていると聞くと、大人は「上手にボールを打てるようになったのか」「ラリーは続くのか」という事が頭に浮かぶと思います。でも園で取り組んでいるテニスはテニスの技術を身に付けるというものではありません。私は体を大きく使ってテニスで遊んでいるのだと思っています。遊びの中で子ども達は様々な事を学びます。初めのうちは「できんけん嫌じゃ」「どうやるんかわからん」といった声も聞かれました。園外保育なので、あまり乗り気じゃない子も、全員が毎回体験する形となることに「やってみよう」と励ます声かけでいいのかとふと疑問に思うこともありましたが、でも友達と一緒に継続してやっていくと、打てそうになった瞬間があり、そのうち打てることも出てきました。気付くと、友達が「やった！打てた！」「スーパーショットやん!!」「ナイス～」と拍手しながら大きな声で褒めてくれたり応援してくれたり、ハイタッチをして喜び合う姿も見られました。その時の子ども達の照れたような、でも誇らしそうな表情を見て、『できるかできないか』じゃなく、その友達との関係性を深められるということに大きな意味があったんだなと感じました。

またできるようになると「今日はネット越えるように頑張る」「ボールをたくさん拾いたい」と自分なりの目標を立てることに繋がり、友達と伝え合い、ただ楽しむだけでなくその目標があるからこそやりきった達成感や友達と認め合った充実感を十分に味わうことができているのだと思います。

友達と同じ目標に向かって頑張る、友達のいいところに気付ける、それを素直に友達に表現できるという心の成長が協同性や自立心の育ちにつながる部分だなと改めて感じます。小学校就学に向けて期待もあり不安もありいろんな整理のつかない感情を今子ども達は抱えています。その中で園生活で楽しみながら経験した友達との信頼関係や、やってきたことへの自信をもって胸を張って卒園の日を迎えて欲しいなと思います。（健康な心と体、自立心、協同性、社会生活との関わり）